

睦眉会会報

発行者 徳島大学陸眉会

〔徳島大学医療技術短期大学部同窓会〕
徳島大学医学部保健学科同窓会

徳島県徳島市蔵本町3-18-15 〒770-8509
徳島大学医学部保健学科内
TEL 088-633-9069 FAX 088-633-9070
発行責任者 河田明男

保健学教育の発展



徳島大学医学部保健学科長
徳島大学大学院保健科学教育部長
徳島大学助産学専攻科長

長 篠 博 文

平成17年10月から保健学科長を務めております長篠でございます。睦眉会会員の皆様には、日頃より保健学科の教育・運営にご尽力いただきまして、誠にありがとうございます。

保健学科は、本年3月初めての卒業生132名を送り出しました。彼らの多くは、医療現場に出て活躍を始めました。一方大学院に進学して研鑽に励んでいる人も少なくありません。

本学でも、近年の医療の高度化、社会や疾病構造の変化に対応し、保健医療活動において指導的役割を果たして先端医療に貢献できる高度専門職者と教育研究者を育成するため、本年4月に徳島大学大学院保健科学教育部（修士課程）が設置されました。保健科学教育部は保健学専攻1専攻から成り、その中に3つの領域、看護学領域、医用情報科学領域、医用検査学領域を設けています。本年4月に第1期生として、定員14名を上回る17名（本学科卒業生8名）の入学者を迎えました。大学院における保健科学教育を支援するための特別教育研究経費も配分されました。本教育部が設置された蔵本地区はヘルスバイオサイエンス研究部を中心とした生命科学研究の一大拠点です。この利点を生かして共通の講義の提供・共同研究の実施を図るとともに、独自の特色を伸ばすことを目指します。現在更に大学院博士課程の設置を目指して計画中でございます。

また、本年4月に徳島大学助産学専攻科が設置され、国立大学として初めて4年制看護教育課程修了者に対する1年間の助産学教育を開始し、定員通り10名が入学しました。専任教員3名は本学医学部保健学科から移動し、保健学科と一体として運営されています。助産学教育は、近年看護教育の大学4年制化に伴い、看護師・保健師の教育と共に選択制により4年間の教育の中で行われるようになり、本学保健学科でも昨年度第1期生19名の教育を行いました。しかし、カリキュラム編成が過密になり、看護学・保健学教育にも影響を与えています。そこで、この問題を解決するため、専攻科設置に至りました。

去る6月28日の両組織設置記念式典・祝賀会開催に当たりまして、睦眉会会員の皆様のご協力を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。

このような保健学教育発展の一方で、運営費交付金・人件費削減などきわめて厳しい環境にもあります。教員一同最善を尽くす覚悟でございますが、今後とも会員の皆様の変らぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

医療の変革について



徳島大学陸眉会会長

河 田 明 男
(診療放射線技師学校 第3期生)

さまざま原作の「眉山」が阿波踊りの終わった徳島市をメインに撮影されています。宮本信子、松島菜々子、大沢たかおが来県し徳島は市内あちこちで演技が繰り広げられています。最近徳島を舞台にした映画の公開が増えています。全国に注目され新しい「徳島」が認知される事は、県人の一人として素直に喜ばしいと思います。しかし、われわれ医療に携わる者として昨今の医療改革の有り様を検証すると、その激しさに当惑し戸惑を感じることも多い。ご存知の通り徳島県は人口当たりの医師数は全国1位ですが、県内あらゆる病院・医療施設において医師不足の状態を呈しています。医師の偏在、医療安全に対応して医師の集約化、適正な医療資源の再配置等々課題は山積している。また、公的医療機関の経営改善の問題も地方議会でも討議される事も多くなってきました。公営企業法の一部適用から全部適用への転換を図ることで、責任と自覚、経営感覚の醸成等々を求め結果として取支バランスのとれた病院を目指す。さらには県立病院の統廃合（香川県）、廃止を含めたあり方の検討（高松市民病院）、県立病院5病院の民間移譲（福岡県）、県立病院と市民病院の合併・PFIによる運営（高知県）、公設民営方式・指定管理者による運営（横浜市）等々従来の自治体立病院が行う運営形態を改める首長が多くなってきました。つまり税で運営する病院として何が最もふさわしいかが厳しく問われている事を意味する。公的医療機関が住民の支持を失うとどうなるか？自明の理で存続しなくなります。一次医療圏、二次医療圏の住民のニーズに合致し、かつ税によって運営されている事が認められているか？公的病院に勤務する全職員が意識を持って、自己検証と不断の改革を怠る事無く専門職として精励するならば、その病院・施設は存続し得る。が、不幸にしてそうでないならば医療もまさに淘汰の時代を迎えて、厚生労働省のシナリオどおり消えていくことになる。

時代は猛烈な速度で変革されています。医療も例外ではなく、出来高制から包括医療制度（DPC）へ、認定機関への診療報酬上の加算、プライマリケア、在宅医療、地域連携医療、住民への公開医療講演、ボランティアスタッフの活用等々病院の運営には多大な労力と協力と積極的な情報発信が不可欠となってきました。我々医療技術者をとりまく環境については、おおむね上記の様な有様です。

しかし、今回徳島大学大学院保健科学教育部が設置され、さらには全国唯一の徳島大学助産学専攻科も設置されたところであります。

職業の発展は後進の活躍にかかっているとよく言われます。優秀な学生、優れた教員を擁する徳島大学医学部保健学科の活躍、発展は結果として先に書きました映画等で「徳島」が更に広く知られ認知が上がるように、ある部分では全国的にも優れた医療環境を財産に持つ徳島県の医療レベルが、全国標準となり事を目指し我々は各自の専門分野において一層の努力をしていくことが努めであろうと考えます。英知を結果することで前途は必ず開けると信じています。

徳島大学助産学専攻科の紹介



徳島大学助産学専攻科
教授 葉久真理
(助産婦学校 第26期生)

平成18年4月、徳島大学助産学専攻科は、国立大学として初めて4年制大学卒業後の助産学教育を開始いたしました。

徳島大学では、昭和32年に医学部附属助産婦学校を開設し、以来34年間の養成所教育の後、平成3年、医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻に改組し、同時に学位授与機構認定の専攻科として14年間短大専攻科での教育を行いました。平成14年4月には、助産師教育50年間で育んできた実績の基で、医学部保健学科の中での選択による助産師教育を開始しました。しかし、選択制による助産師教育では、学生には4年間で3つの国家試験受験資格が得られるというメリットがある一方、助産師としての実践能力を育成するためのカリキュラム編成が極めて困難な状況が生じております。第一の問題は、分娩介助回数10回程度を行わせることにより、分娩期における診断能力と診断に伴う個別なケアを実践する資質を育成するための単位数が確保できないという状況に直面しています。助産学教育を行う大学の大学においても学生は、休暇を返上し実習を行っている状況にあります。助産学を選択する学生の学習負担は過重となる一方で、助産実習時間の延長は、看護・保健学カリキュラムの実施にも少なからず影響を与えております。このような状況から、助産師を目指す学生のニーズに応じつつ、大学における選択制での助産師教育上の様々な問題及び少子化という社会構造の変化の中で求められる助産師の役割と責任を全うするために、助産師として核となる能力をカリキュラムの中心に置いた助産学専攻科が設置されました。

本専攻科は、女性のライフサイクルの変化の過程に関わる助産実践に必須の判断能力と実践能力、および徳島大学の教育理

念のもとで学生の多様な個性を尊重し、人間性豊かな専門的能力を身につけ、母子保健の発展に向けて豊かな未来の創造に貢献できる人材の育成を目指しております。

なお、助産学教育プログラムは、2008年度までは保健学科看護学専攻での選択による助産学教育と、大学卒業後1年間の専攻科による教育が並行して行われることとなります。従って、当面、専攻科定員は10名です。カリキュラムは、助産基礎領域、助産実践領域、成育支援領域で構成され、34単位以上の履修を要件としております。殊に、助産学実習は19単位(必須15単位、選択4単位)開設し、妊娠・分娩・産褥期の診断とケア能力を育成するとともに、思春期にある者、遺伝・不妊という課題を抱える女性ならびに家族への支援についても学習します。また、助産所における助産活動を日本各地のモデルとなる助産所において学びます。

更には、助産実践上の問題を解決するための研究能力の育成にも力を注ぎ、女性と家族のニーズに基づいた妊産婦サービスが提供できる資質を育成するための教育・研究を目指しています。

今後共、助産師育成に更なるご支援をお願い申し上げます。

助産学卒業生の皆様には、母校が組織改組により名称が変更し、混乱されておられるかも知れませんが、助産学教育では、皆様が学ばれた時同様、それぞれの時代・社会のニーズに応えられる助産実践能力の高い助産師育成に向けて努力しております。



助産学専攻科1期生

徳島大学助産学専攻科に入学して



徳島大学助産学専攻科 1期生
菅長 由香理

助産学専攻科に入学して、早くも5カ月が過ぎようとしています。入学当時は、国立大学で初めての助産学専攻科で、周産期のみでなく思春期や更年期を含めた様々な分野での学びを深められるという大きな期待と共に、これから専攻科の歴史を作る第1期生なのだという意気込みを抱いていました。また、同じ目標を持つ10人の仲間と一丸となって、助産師になるための第1歩を踏み出せることを嬉しく思っていました。

今では、入学した4月を遠い日に感じる位に充実した日々を過ごしています。授業では、助産師として経験豊富な先生方の体験を含んだ指導のみでなく、徳島大学病院や近隣の病院の産婦人科の医師からの授業も受けられます。授業内容と共に、「医師としての診断や治療はこうだが、君たちは助産師としてどういう診断やケアを行うか」というあらゆる場面の問いかけによっても、学びを深めています。実習では、

徳島大学病院と近隣の診療所に行かせていただき、様々な場面での体験が貴重な学びとなっています。8月には、国立高知病院での集中実習がありましたが、泊まり込みで、いつ分娩の連絡が入るか分からない緊張感のもと、仲間と励まし合いながら過ごした2週間は、助産の知識・技術面のみでなく、精神面でも成長できたのではと感じています。

このように授業・実習共に充実した内容ですが、それは、どの場面でも自分たちが判断したことを最善の方法で行うための選択ができるように、先生方が私たちを信頼し、側で見守ってくださっているからだ実感しています。実習の中では辛いと感じることもありますが、誰のせいでもなく自分が選択した判断だという考えで取り組みれば、それも充実した1日の1コマに変わります。また、10人の仲間の中では、互いの意見を交換し合い、そのことが今後の専攻科の向上に繋がればという意識がいつもあるように思います。このような最高の環境の中で、先生方や仲間と一丸となって、今後も頑張っていきたいと思います。

徳島大学大学院 保健科学教育部に入学して



徳島大学大学院 保健科学教育部
看護学領域 1年
横山 あかね

今年4月から徳島大学大学院に通うようになりました。毎回授業では新しい刺激を得ることができ、充実した日々を送っています。しかし今年の1月には大学院に行く事は全く考えていませんでした。私は大学病院で勤務していますが、ある日勤の昼休みに「保健学科に大学院ができるらしいよ。学士がなくても入れるみたいやな。」とあるスタッフが教えてくれました。学士がなくても大学院で勉強ができる？ちょっとびっくりしました。ずっと学位認定機構で学士を得ようとがんばってきた私は学業成果の研究レポートに悩んでいました。自分の研究も手詰まり状態で、研究について知りたい、誰かの指導を受けたいと思っていた矢先の話でした。仕事をしながらでも勉強ができ、大学院が

近くにあり交通にも便利で理想的な環境でした。「これは絶対行かなきゃ！」と即断しました。優柔不断な私にしては今までで一番早い決断だったと思います。

4月に大学の授業に来てびっくりしたのは入学生の全員が年上で十分な知識と技術を持った人たちばかりだった事でした。授業では教授の話も、またその人たちの発言も勉強になることばかりでした。教育の立場から、臨床の立場からといういろんな視点から意見を聞けることはとても楽しく、また刺激を受けています。今まで狭い世界で暮らしていたんだなど実感しました。今はまだ「は一、なるほど、すごいなあ」と感心するばかりの受け身な状態ですが、学習を深め、自分のスタイルを見つけて発信できるようがんばりたいと思います。臨床で長年働いていると仕事の事で悩んだり落ち込んだりする事もあると思いますが、ちょっと別の世界に飛び込んでみるのもいいですよ。すると自分のしたかったことが見つかるかもしれません。私は大学院に来て大正解でした。



徳島大学大学院 保健科学教育部
医用情報科学領域 1年
池口 雅紹

今年の春、大学院に入学した。大学院に進学した目的は二つある。学部生の時にできなかったMRIの研究と、修士の資格を取ることである。大学を卒業し就職してしまえば研究する機会やモチベーションが減ると思ったし、今のうちに研究しておけば必ず将来の役に立つ。これから先の長い技師生活をさらに意味あるものにするためには、大学院を卒業することは不可欠であると私は考えている。現在、私は徳島大学病院に勤務しながら大学院に通っているが、はっきり言ってしんどい。休みがない。しかし研究もでき、さらに臨床の経験を積むことのできる今の状態に非常

に満足している。二年間、おそらく一瞬で過ぎていくだろうが、ひとまずこの忙しい日々を満喫し、楽しみたい。私たちは保健科学教育部の一期生であるから、これから入ってくる後輩達が大学院に進学しやすい環境を作る責任があるし、それが義務である。従って、私たちが楽しんで過ごすことで少しでも後輩の大学院に対する理解が深まればいいし、理解したうえで多くの後輩たちにも大学院進学を勧めたい。しかし、何しろ一期生、ほとんど全てが手探り状態であり、わからないこともたくさんあるので、早く後輩達に助けて欲しいという気持ちがあるのも事実。早くも来年が待ち遠しい。

さて、ただいまの時刻am.3:30。今日も寝るのは遅いけど、もうしばらくはこんな生活を続けようかな。大学院に入学して、私の未来はさらに可能性が広がったはず。そんな近い未来を夢見て、今日も短い睡眠をとるとしよう。



徳島大学大学院 保健科学教育部
医用検査学領域 1年
吉田 貴則

早くも入学して4ヶ月以上がたち、やっと大学院での授業や研究、またティーチングアシスタントとして下級生への指導など、大学院での生活に慣れてきたところで、書かせていただくことになりました。

私は、『生殖補助医療学』を専攻しています。その専門の分野では、不妊治療を専門的に行う「胚培養士」になるべく勉強しています。生殖補助医療は、少子化対策の一つとしても考えられていて、近年注目を受けている分野です。その中で、「胚培養士」というものは、患者さんからの採卵や、受精卵の移植など侵襲的行為は行えないものの、それ以外の体外受精や顕微授精など、治療にかかわる多くのことが行え、実際の治療の一端を担って仕事ができます。また尊い生命の誕生に助力でき、治療が成功した際の患者さんの喜びを少しでも共感できるのではないかとこの専攻を選択し

ました。現在は授業を受け、最新の不妊治療について多くのことを学び、それだけでなく実際に大学病院において見学や実習をしています。現場の「胚培養士」の仕事を感じ、その楽しさや難しさなど様々なことが勉強できます。

また現在の研究は、学部生の際の卒業研究を継続して行っています。学部生のときのそれよりも一段シビアになり、帰宅の時間が遅かったり、今まで経験したことのない実験法を使用するなど、苦勞することも多いですが、日々頑張っています。

さらに、ティーチングアシスタントでは、人に物事を教えることの難しさがわかり、どうすればより伝えることができるのかなど悩む点もありますが、将来的には後輩の指導ということも必要になると考えられるので、現時点からそれを経験できるということは、大学院の良い点だと感じています。

このように「胚培養士」の勉強、研究、ティーチングアシスタントと忙しいながらも、この2年間が将来的に必ず役に立つと信じ、日々充実した生活を送っています。

徳島大学医療技術短期大学部
閉学記念式典および記念懇親会

徳島大学医療技術短期大学部は昭和62年10月に看護学科、診療放射線技術学科および衛生技術学科が徳島大学に併設されて、平成3年4月に専攻科助産学特別専攻が設置されました。平成13年10月に徳島大学医学部保健学科に発展的に改組することとなり、平成17年3月をもって閉学となりました。この間に2,054名の卒業生・修了生を輩出し、歴史的役割を終えることになりました。

閉学を記念して平成17年3月30日に徳島大学青藍講堂において、徳島大学医療技術短期大学部閉学記念式典が挙行されました。青野敏博医療技術短期大学部学長の式辞に続いて、徳島県副知事、歴代の医療技術短



閉学式典 (青野学長式辞)



懇親会

期大学部学長である武田克之先生、齋藤史郎先生のご祝辞を賜りました。さらに河田明男徳島大学医療技術短期大学部同窓会会長および近藤尊徳島大学医療技術短期大学部後援会会長からもご祝辞を賜り、祝電の披露をもちまして閉会となりました。

その後、蔵本会館に場所を移して、徳島大学医療技術短期大学部閉学記念懇親会が催されました。前澤博徳島大学医療技術短期大学部部長の開会挨拶を始まりに、多数の来賓の方々からご祝辞を賜りました。乾杯の後は、歴代の教職員をはじめ、関係者の方々とともに、和やかなひとときを過ごしました。



設置記念式典 (飯泉徳島県知事祝辞)

平成18年6月28日(水) 本学蔵本キャンパスにおいて、徳島大学大学院保健科学教育部・徳島大学助産学専攻科設置記念式典及び祝賀会が本学関係者のもとより文部科学省、地元政官界、医療関係各位等多数ご臨席の中、盛大に挙行されました。本同窓会からは河田明男会長が出席されました。

式典は17時から医学部青藍講堂にて執り行われました。青野敏博学長の式辞に続いて、文部科学省高等教育局医学教育課長代理、飯泉嘉門徳島県知事、徳島県看護協会会長代理、藤原良介徳島県放射線技師会会長、永峰康孝徳島県臨床検査技師会会長、竹

内美恵子日本助産師会副会長のご祝辞があり、ついで多数の祝電が披露されました。

祝賀会は18時から蔵本会館に場所を移し催されました。長篠博文保健学科長の挨拶に続いて、河田明男徳島大学医学部保健学科同窓会会長、田岡博明徳島大学医学部後援会会長、近藤尊徳島大学医学部後援会副会長のご祝辞があり、曾根三郎医学部長の乾杯で祝宴にうつりました。和やかなひとときを過ごした後、二宮恒夫保健学科教授の謝辞により閉会となりました。



設置記念祝賀会 (河田睦眉会会長祝辞)

徳島大学大学院保健科学教育部
徳島大学助産学専攻科
設置記念式典及び祝賀会について

定年退職された先生方からのメッセージ 「退職後の近況」



徳島大学名誉教授
元徳島大学医学部保健学科教授
竹内 美恵子
(看護学校第11期生、助産婦学校第6期生)

平成18年3月に退職して6か月が経過しました。地図のない旅を駆け抜けた43年間でしたが、退職後、最初の月曜日は、ゆったりした時間の中で、庭に咲く小花を食卓越しに観ながら朝食を終えました。先ずは、開放感と感謝の気持ちで満たされた退職初日の出発でした。その後の日々も、時を自由に満喫し、新たな生活リズムを創り出す挑戦に心を弾ませています。94歳の母と共に日々充実するアイデア、予想外に多い家の「こと」、おいしくいただく毎日のメニューづくりに挑戦しています。その成果として、「すし」、「煮物」の秘伝免許が母から与えられ今日に至りました。

現在は、新たにお引き受けした徳島大学病院看護教育支援室で、アドバイザーとして病院に毎日5～6時間出勤しています。その他学会、職能団体での役割、同窓会や講演会への出席等、一連の社会的活動は在職中とはあまり変わらない状況です。看護教育支援センターは、センター長 香川征病院長、副センター長 大岡看護部長のもとで、看護の卒後研修提供体制の現状を分析しつつ、生涯教育に向けた研修体制の整備充実への活動を進めています。病院における看護実践の場はずいぶん改革と改善に力を尽くされていると感じています。とりわけ、日々の業務に励みながら、看護サービスの充実に向け努力される看護師皆さんの熱意に感動しつつ、なんとか力をつくしたいと考える日々を過ごしています。このような日々の生活を通して、43年間の中で培った心が、今日の生活にいきつづけていることに、しばし驚きを感じている昨今です。

最後になりましたが、退職にあたり温かいお心を寄せていただいた同窓生の皆様、心からのお礼を申し上げます。お世話になりました方々や同窓生の皆様のごことは、感謝と共に、いつも大切に心にとどめ、日々元気に過ごさせていただいております。

末筆ながら、会員の皆様方の益々のご健勝を祈りつつ、近況報告といたします。



徳島大学名誉教授
元徳島大学医学部保健学科教授
寺尾 紀子
(看護学校第11期生、助産婦学校第6期生)

徳島大学では助産師・看護師として臨床・教育に40余年関わって参りました。在職中は関係者の皆様にお大変お世話になりました。最後の数年間は医療短期大学部から4年制大学への移行と大学の独立法人化等が重なり毎日を慌ただしく過ごしました。

退職して5ヶ月が経過しましたが、数ヶ月前の研究室の整理等で忙しかったことが遠い昔のように感じられます。退職したらしだれ桜を見にいきたいという思いがやっと実行できました。満開直前の7～8分咲きを見たいために京都にある醍醐のしだれ桜を見に行きました。世界文化遺産に登録された醍醐寺の境界はしだれ桜で埋め尽くされていました。豊臣秀吉が「醍醐の花見」を行ったという名所でもあります。広いガラス張りの部屋から8分咲きのしだれ桜を堪能しました。

この桜は秀吉の時代から現在まで長い歴史をみてきたかと思うと、圧倒的な花の力に押されて人は誰も彼も小さく見え、小さな人間の生の時間に感慨深い思いでした。桜の花の散る時をみて世の哀れさや儂さをいわれるが、上品で、優雅なしだれ桜の長い先端まで花をつけて、大地に枝先の花をつけるように大樹がたっている姿は、私には力強い生命の継承を感じました。しだれ桜の姿ってイナバウア（オリンピック金メダルの荒川静香選手）に似ていませんか。

花の力の美しさは生命力に満ちた咲き方を賞でられながら、花弁は幾日かで枝を離れる。時間はみんな同じであるが、時間ほど浪費しやすいものではなく時間ほど貴重なものはない。

米年も健康面に留意しながら桜前線に沿って桜の名所を訪ねたいと考えています。先日、徳島大学同窓会連合会の交流会が盛会に開催されましたことを睦眉会の一員としてうれしく今後の発展に期待します。



徳島大学同窓会連合について

睦眉会 会長 河田 明男

徳島大学が独立法人化を契機に各学部・学科の同窓会を連合体とし、卒業生の資力・愛校心に期待しつつ優秀な教育・学生への資金的援助を行い、ひいてはインセンティブを与えることで優れた研究成果に繋げることが出来ないかとの考えから、今年1月に創設したのが「同窓会連合」です。団体は潤水会（総合科学）、青藍会（医学）、栄友会（栄養学科）、蔵術会（歯学）、薬友会（薬学）、工業会（工学）、睦眉会（保健学科）、六一会（解放実践センター）の8団体で、構成員は約53,000名を擁します。わが睦眉会も4,800名余の会員数を数える有力団体となっています。さて、平成18年6月18日（日）12:00～14:00徳島プリンスホテルにて平成18年度徳島大学同窓会連合会交流会が開催



日亜会館 1階「ガレリア新蔵」見学会の様子



平成18年度徳島大学同窓会連合会交流会（河田会長）

されました。当日は各学部・学科の同窓会から会長・役員が多々出席され青野学長の挨拶で交流会が始まりました。150名以上の参加者をかぞえて、広いプリンスホールも立錫の余地無き状態でした。

各同窓会の会長が挨拶を行い、大学役員6名の紹介があり武田克之 元学長の乾杯の後、歓談に移りました。徳島大学のプロモーションビデオが披露された後、齋藤史郎 前学長の乾杯で閉会となりました。なお、この交流会は年1回の開催予定です。

また、交流会に先立ち、新設された徳島大学地域・国際交流プラザ（日亜会館）の見学会が行われました。

「白眉会」 休会のご報告



徳島大学白眉会会長
米 崎 恵 子
(看護学校 第20期生)

秋冷の候 睦眉会会員の皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。

ご存じのように我が母校は、諸先輩方のご努力により、昭和63年に徳島大学医療短期大学部、平成14年に徳島大学医学部保健学科へと発展的に変遷を重ね、教育の充実が図られてきたことを誠に喜ばしく思います。

さて、白眉会は昭和35年に徳島大学医学部附属看護学校の同窓会として発足し、先輩諸師のご活躍により活発に運営されてきました。しかし平成8年に睦眉会が発足したこともあり、平成14年3月に白眉会評議委員会が開催されて以降は委員の招集がされていませんでした。平成17年3月に私が会長を拝命したのを機に、組織の変遷に伴い白眉会の運営を見直す時期と考えまして、平成18年2月に評議委員会を開催させていただきました。委員会でご協議いた

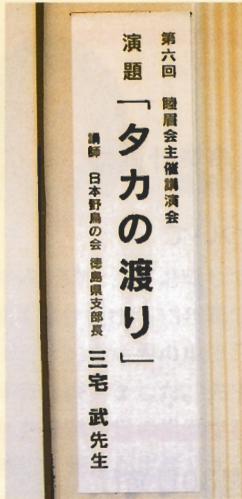
きました結果、私の任期終了の平成19年3月末をもって白眉会を休会することが決議されました。白眉会の繰り越し金（67万円）については睦眉会に寄付し、会員に還元できるよう有効活用してもらうこととなりました。以上につきまして睦眉会会報の紙面をお借りしまして会員の皆様にご報告させていただきます。

私事で恐縮ですが、早いもので定年まで残すところ3年になりました。にきび面の生意気な学生時代から今日までのことが走馬燈のように思い出され、長かったようであつという間の出来事のようにも感じます。これからの人生も気持だけは若く、加齢による老化とうまく付き合って楽しく過ごしていければと願っています。

最後になりましたが、睦眉会、白眉会の皆様のご健康とご多幸、ご活躍を心よりお祈りいたします。

第6回 睦眉会主催講演会に参加して

安 田 健 三 (診療X線技師学校 第7期生)



梅雨入り前の夏空。眉山より「ワシントンホテルプラザ」に吹いてくる青葉風が心地よかった。「タカの渡り」をテーマに、日本野鳥の会徳島県支部長である三宅武先生が貴重な映像を披露してくださいました。先生は臨床検査技術学において、徳島県の草分け的存在と申し上げてよい方です。子供の頃より自然をこよなく愛され、40年以上も日本野鳥の会々員として、渡り鳥の保護や渡りのルートの観察・研究を全国各地で



た。蒲生田岬や鳴門海峡で写された超アップの鷹の眼。その動きと迫力は私の脳裏に今も焼き付いています。鷹の生態や種類の見分け方も興味深く聴きました。機会があれば是非もう一度「鳥の世界」に入ってみたいものです。

(平成18年6月3日開催)



続けてられました。その豊富なデータは他の追随を許さないものがあります。ホテルの会場「若桜の間」で見た膨大な量の映像は、全て三宅先生自身の撮影によるものでし



永峰 勲 先生をしのんで



永峰勲先生は、平成17年8月23日に55歳という若さで急逝されました。先生は、徳島大学医学部医学科をご卒業後、昭和61年4月徳島大学医学部附属病院精神科神経科に入局、昭和62年4月徳島大学医学部助手、平成8年10月徳島大学医学部附属病院講師、平成9年徳島大学医学部精神科神経科助教授を経て、平成14年4月徳島大学医学部保健学科教授に就任されました。

先生は15歳で腎臓を患い、病氣と戦いながら東京大学を卒業され、人工透析を続けながら医師への道を歩み、腎臓移植を受けてからはさらに精力的に精神保健福祉の改善を目指してられました。先生がそのような大変な人生を歩まれたことを存じ上げなかった方が多いのではないのでしょうか。

徳島大学医学部保健学科 地域・精神看護学講座

助教授 谷岡 哲也

保健学科の教授になられてからは、地域・精神看護学講座の教授として、認知症に対するケアの向上に関する研究、統合失調症治療薬の副作用軽減に関する研究、精神障害者の社会復帰促進に貢献するための精神保健福祉活動に力を注ぎ、看護学の教育に反映するよう意図的に取り組み、多くの看護職の育成に広い見識と包容力豊かな人格をもって学生及び後進の指導に尽くされました。

時が経つのは早く、平成18年8月20日に日本キリスト教団坂出協会で一周年記念式が執り行われました。永峰先生が大切にしていた聖書の一節に、「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る」があります。先生はその大きな愛でいつまでも私たちを見守ってくださっていると思います。

平成18年度 徳島大学睦眉会総会要綱

日時 平成18年6月3日(土) 10:00~10:30

場所 徳島ワシントンホテルプラザ

総会次第

- 1.開会
- 2.会長挨拶
- 3.議事
 - (1) 平成16,17年度事業報告
 - (2) 役員会報告
 - (3) 平成16,17年度会計報告
 - (4) 会計監査報告
- 4.議案審議
 - (1) 平成18年度予算案、事業計画案について
 - (2) 睦眉会会則の改正について
 - (3) 役員改選案について
- 5.その他
- 6.閉会

平成16,17年度 事業報告

- 1.睦眉会会員名簿(2004年版)の発行・・・平成16年8月30日発行
- 2.総会・睦眉会主催講演会の開催・・・平成16年11月14日
徳島東急イン(参加者44名)
第5回講演会「葉草を食べて健康生活」村上光太郎 先生
- 3.医療短大専攻科助産学特別専攻 修了祝賀会出席・・・平成17年3月25日
(会長 他)
- 4.徳島大学医療技術短期大学部 閉学記念式典・祝賀会出席・平成17年3月30日
(会長 他)
- 5.睦眉会会報の発行・・・平成18年3月18日発行
- 6.卒業式・医学部各賞授与式出席(会長 他)・・・平成18年3月24日

役員会報告

1.役員会開催状況(平成16年4月~18年6月)

回数	開催日時	場所	参加人数
1回	平成16年4月21日(水)18:00~20:00	保健学科会議室	8名
2回	平成16年7月7日(水)18:00~20:00	保健学科会議室	8名
3回	平成16年10月6日(水)18:00~20:00	保健学科会議室	9名
4回	平成16年10月27日(水)18:00~20:00	保健学科会議室	15名
5回	総会開催 平成16年11月14日(月)10:00~10:30	徳島東急イン	会員 30名
6回	平成16年12月1日(水)18:00~20:00	保健学科会議室	14名
7回	平成17年1月19日(水)18:00~20:00	保健学科会議室	12名

回数	開催日時	場所	参加人数
8回	平成17年2月14日(月)18:00~20:00	保健学科会議室	9名
9回	平成17年10月17日(月)18:00~20:00	保健学科会議室	6名
10回	平成18年3月8日(水)18:00~20:00	保健学科会議室	11名
11回	平成18年4月6日(木)18:00~20:00	保健学科会議室	12名
12回	平成18年5月22日(月)18:00~20:00	保健学科会議室	16名
13回	総会開催 平成18年6月3日(土)10:00~10:30	徳島ワシントン ホテルプラザ	会員 29名

2.役員会における主な協議事項

- 1) 睦眉会総会・講演会開催について
- 2) 睦眉会会報の発行について
- 3) 同窓会名簿発行およびデータの追加、訂正について
- 4) 睦眉会会則の改正について
- 5) 役員改選について
- 6) 徳島大学同窓会連合会への協力について
- 7) 徳島大学医療技術短期大学部 閉学記念事業への寄付等協力について
- 8) 保健学科阿波踊り連「美連」への寄付金について
- 9) 役員出張における旅費等支出の規約について

徳島大学睦眉会会則(改正)

※ 赤字は改正点を示しています

第1章 名 称

第1条 本会は、徳島大学睦眉会と称し、事務局を**徳島大学医学部保健学科内**に置く。

第2章 目 的

第2条 本会は、会員相互の親睦及び母校の発展を図り、もって、保健医療の向上に寄与することを目的とする。

第3章 事 業

第3条 本会は、次の各号に掲げる事業を行う。
一 母校との連絡及び母校の振興に関すること。
二 会誌及び会員名簿の発行
三 会員の親睦及び互助に関すること。
四 その他本会の目的を達成するために必要な事業

第4章 会 員

第4条 本会は、正会員、準会員及び特別会員をもって組織する。
2 正会員は、次の各号に掲げる者とする。
一 徳島大学大学院保健科学教育部修了生
二 徳島大学助産学専攻科修了生
三 徳島大学医学部保健学科卒業生
四 徳島大学医療技術短期大学部卒業生
五 徳島大学医療技術短期大学部専攻科修了生
六 徳島大学医学部附属看護学校卒業生
七 徳島大学医学部厚生女学部卒業生
八 徳島医科大学厚生女学部卒業生
九 徳島医科大学附属病院看護婦養成所卒業生
十 徳島医学専門学校附属医院看護婦養成所卒業生
十一 徳島県立徳島医学専門学校附属医院看護婦養成所卒業生
十二 徳島大学医学部附属診療放射線技師学校卒業生
十三 徳島大学医学部附属診療エックス線技師学校卒業生
十四 徳島大学医学部附属臨床検査技師学校卒業生
十五 徳島大学医学部附属衛生検査技師学校卒業生
十六 徳島大学医学部附属助産婦学校卒業生
十七 第一号から第十六号に掲げる学校又は養成所に在学していた者で役員会が推薦した者
3 準会員は、次の各号に掲げる者とする。
一 徳島大学医学部保健学科在学生
二 徳島大学大学院保健科学教育部在学生
三 徳島大学助産学専攻科在学生
4 特別会員は、**徳島大学医学部保健学科及び徳島大学助産学専攻科の教員**、第2項各号に掲げる学校又は養成所の旧教員、その他、旧職員のうち役員会が推薦した者とする。

第5章 役 員

第5条 本会に、次の役員を置く。
名誉会長 1名
会 長 1名
副会長 4名
理 事 若干名
監 事 2名
第6条 役員は、次の各号に掲げるとおりとする。
一 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その任務を代行する。
三 理事は、会員を代表し、会務を審議し、決定する。
四 監事は、事務の管理執行を監査する。
第7条 役員の選出は、次の各号に掲げるとおりとする。
一 名誉会長は、**徳島大学医学部保健学科長**の職にある者をもって充てる。
二 会長、副会長及び監事は、役員会において理事のうちから選出する。
三 理事は、正会員のうちから推薦する。

第8条 役員は、任期は、2年とし、再任を妨げない。
第9条 役員は、任期が満了した場合においても、後任者が決定するまでは、引き続きその任務を行うものとする。

第6章 会 議

第10条 本会は、毎年1回、総会を開くものとする。ただし、役員会をもって総会に代えることができる。この場合においては、必要に応じて、その結果を会員に報告するものとする。
2 総会は、会長が招集する。
第11条 総会は、次の各号に掲げる事項を審議し、決定する。
一 事業計画
二 予算及び決算
三 役員の選出
四 会則の改廃
五 その他本会に関する重要な事項
第12条 役員会は、必要に応じて、会長が招集する。
第13条 役員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、決定する。
一 総会に提出する議案
二 事業計画案
三 予算案及び決算案
四 会誌及び会員名簿の発行
五 その他本会に関する重要な事項
第14条 役員会は、役員の過半数の出席で成立し、議事は出席者の過半数の賛成で決する。

第7章 支 部

第15条 本会には、以下の支部を置く。
一 **看護学専攻支部**
二 **放射線技術科学専攻支部**
三 **検査技術科学専攻支部**
四 **助産学専攻科支部**
第16条 本会には必要に応じて、第15条以外の支部を置くことができる。
第17条 支部に関する事項は、本会に報告するものとする。
第18条 各支部の運営に関する規定は別に定め、当該支部において行う。

第8章 会 計

第19条 本会の経費は、会費、寄附金その他の収入をもって充てる。
第20条 会費は、本部会費20,000円を準会員が**終身会費**として、入学手続時に納入するものとする。**ただし、入学生のうち、本学出身者で、すでに準会員として終身会費を納入済みの場合は、これを免除する。**
2 第15条による支部の支部会費は、別に定め、準会員が卒業時に、当該支部へ納入するものとする。
3 第15条に定める支部以外の支部会費は、当該支部の定めるところによる。
第21条 既納の会費は、返還しない。
第22条 決算は、監事による監査を受けて役員会の承認を得るものとする。
第23条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第9章 雑 則

第24条 この会則の改廃は、総会において出席者の過半数の賛成を得なければならない。

附 則
この会則は、平成8年1月20日から施行する。
この会則は、平成13年10月1日から施行する。
この会則は、平成16年1月1日から施行する。
この会則は、平成18年4月1日から施行する。



徳大ニュース



徳島大学に関するニュースをお届けします。詳細は徳大広報並びに本学ホームページを御覧ください。また、会員の皆様の御意見や御要望をお寄せください。

徳島大学総務部秘書課 (Tel:088-656-7021 Fax:088-656-7012)
E-mail:hibunsyok@jim.tokushima-u.ac.jp URL:http://www.tokushima-u.ac.jp

I 学内の状況

■大学院を改組・設置、専攻科新設

4月1日、大学院工学研究科を改組し、教員の研究組織としての大学院ソシオテクノサイエンス研究部と学生の教育組織としての大学院先端技術科学教育部を設置しました。

学生が所属する教育部は、博士前期課程8専攻・博士後期課程5専攻をそれぞれ3専攻に再編することにより、各専門分野の垣根を低くし、幅広い分野の知識を習得させることを目指しています。

同日、蔵本地区には、大学院保健科学教育部及び助産学専攻科を設置しました。

保健科学教育部は、同地区の4教育部(医科学、口腔科学、薬科学、栄養生命科学)同様、学生の教育組織として設置され、革新的な進歩に伴い、多様化、高度化、専門化した医療環境に対応できる医療人の育成を目標としています。

また、助産学専攻科は、国立大学として初めて4年生大学卒業後の助産学教育を行うもので、助産のスペシャリストの育成を目標としています。

■徳島大学病院で中学生が職業体験学習

6月6日(火)から8日(木)の3日間、徳島市

八万中学校の3年生10名(男5、女5)が職業体験学習のため、徳島大学病院を訪問しました。

この取り組みは八万中学校が企画しているもので、県内の各企業等に生徒(3年生)が訪問し、将来の職業選択の参考とすることを目的としています。

徳島大学病院では、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師などから実際の医療現場での説明、生徒同士がペアとなり歯石を取るなどの実習が実施され、また、最終日には患者さんに提供している給食を食べました。

生徒たちは様々な角度から医療の一端に触れる3日間を過ごしました。

■オープンキャンパス(学部説明会)を開催

高校生を対象に、8月3日(木)・4日(金)の両日、大学の公開、情報提供を目的としたオープンキャンパスを開催し、県内外の高校生、保護者及び高校教員等を合わせて2,278人の参加がありました。

各学部では、学部・学科紹介、入学試験案内、施設見学をはじめとして、体験入学、大学院生等との懇談会、研究内容紹介など、多彩な内容を準備し、本学のPRに取り組みました。

II 学生関係

■入学式

4月6日(木)、アスティとくしまで平成18年度入学式が学行され、青野学長が合計2,064名(学部1年次1,338名、学部3年次67名、大学院修士(博士前期)課程523名、大学院博士(博士後期)課程126名、助産学専攻科10名)の入学を許可しました。

入学生を代表し、薬学部の山田梨沙さんの総代宣誓の後、学長から「Genious is one percent of inspiration, and ninety-nine percent of persipation~天才は1%のひらめきと99%の努力によるものである。」というトーマス・エジソンの述べた言葉が贈られ、「新入生諸君の若さとその可能性に大いに期待している。」との式辞がありました。

■第57回四国地区大学総合体育大会開催

第57回四国地区大学総合体育大会(四国インカレ)は、一部の競技を除いて6月30日(金)から7月2

日(日)までの3日間の日程で、香川県を舞台に香川大学が当番大学となり、27大学・短大から約4,000名の学生が参加し、24競技に熱戦が繰り広げられました。あいにくの雨天のため4競技(硬式野球、準硬式野球、ソフトボール、ボート)については、残念ながら中止となりました。

本学からは、22競技に453名(男子366名、女子87名)の学生が出場し、競技別では、優勝がヨット(男子)・水泳競技(女子)、第2位が水泳競技(男子)、第3位が硬式庭球(男子)と好成績を残しました。

本学の総合成績は、男子が第5位(昨年第5位)、女子が第7位(昨年第5位)と健闘しました。

	優勝	第2位	第3位	徳島大学
男子競技	松山大学	愛媛大学	高知大学	第5位
女子競技	松山大学	愛媛大学	香川大学	第7位

III 研究助成金

外部資金受入れ状況(平成16年度)

共同研究	130件	212,111千円
受託研究	78件	708,915千円
寄附金	1,026件	1,130,421千円

外部資金受入れ状況(平成17年度)

共同研究	159件	477,318千円
受託研究	89件	879,641千円
寄附金	986件	1,190,375千円

編集後記

毎日、見聞きするニュースは暗い話が多いですが、「君は愛されるために生まれた」という歌と、それに関連した全身熱傷治療後の韓国人女性の講演ビデオを見ました。その他にも、病院の相談室でお聞きする障害を持つ患者さまの前向きな療養生活に、感動を覚えることが多々あります。「人間としてどう生きるかと医療の関係」に悩みながら、「笑顔」と「感謝」をモットーに仕事をさせて頂いています。編集会議では、睦眉会役員の諸先輩(特に定年退職された方)のパワーに感心しながら、この会報が会員の皆様にお届けできることに喜びを感じています。

「愛されるために生まれた」幸せを思い起こして、明日から楽しい日々を送られるようお祈り申し上げます。(杉原 治美)